滿州日報

…市…元百六吊百至六…吊一百
…糧價錢五吊四百文至五吊
集…共上車三十餘輛
邊…共來七十餘輛
元…吊九百至六吊八百

一連紙　一連　一圓
一フールスカツプ　全　四圓
一中判洋紙　全　二圓
一半紙罫紙　百枚　二十錢
一卷紙　四十枚續　十四錢

一椅子　一圓五十錢以上四圓五十錢
一簞笥　三十圓以上三十五圓
一卓子　四圓五十錢以上十三圓五十錢
一卓子掛　六圓以上十二圓
一厨房用戸棚　七圓五十錢以上十圓

一絨毛布　一枚七八　四圓以上六圓五十錢
一長火鉢　八圓以上十一圓五十錢
一箱火鉢　二圓以上三圓五十錢
一宜德火鉢　一對　六圓以上九圓

Rates for Advertisement 20 cts. per line.
Payable in Advance. Postage Included.
The Manchuria Daily Report Office,
Newchwang.
Telephone No. 29.

廣告料　一ヶ月以內　每行十五仙乃至十…
一長期連揭減價面議
發行所　清國營口中盛街　滿洲日報社　(電話二九番)

特別廣告

横濱正金銀行牛莊支店

▲資本金貳千四百萬圓
▲積立金一千零拾四萬圓

本支店出張所
横濱　神戸　東京　長崎　大阪
倫敦　里昂　紐育　桑港　布哇
孟買　香港　上海　天津　北京
大連　旅順　奉天　芝罘　鐵嶺

電話　十一番 支配人室　百八番 事務室

日本郵船株式會社 瀛船出帆廣告

長幸丸　三月廿八日着
山東丸　大沽、芝罘、門司、神戸行　三月廿九日發
相模丸　大沽、芝罘、仁川、釜山、長崎、門司、神戸行　四月三日發
横濱丸　大沽、芝罘、門司、神戸行　四月五日發

乘船切符發賣は出帆前三時間マデ未明出帆ノ分ハ前日午後五時マデ

營口代理店　旗昌洋行　(電話廿六番)

瀛船出帆廣告

賴朝丸　大阪、神戸、門司、大連、營口間定期航海
摩耶山丸　同上
錦龍丸　芝罘、營口間定期航海

營口代理店　松茂洋行船舶部

清酒東自慢、白鹿
朝日ビール
孔雀印平野水、
上等石炭

以上極廉價を以て發賣致候間御用仰付被下度候也

松茂洋行商業部　河岸通(電話五十二番)

○報價目
每月收取八角代賣所及送報人并無分毫加增
○告白刊例
一行五號二十一字起碼登一日者每行二角每登十日行一角五分登月者每行每日一角登長年者價當面議
從減　每張四百文

三井洋行

倉庫部

啓者本行開創在中外通商各埠已有年歷所售棉紗棉布火柴煤炭糖海參等各貨均皆物美價廉名馳遠近如蒙各商光顧請駕臨是荷着

●精製白砂糖新入荷物あり

今回倉庫所在地(青堆子精搗場上隣り河岸)の取扱所に電話を架設致し候間貨物の出入其他倉庫に關する一切の件は全所へ御照會被下度願上候　(電話百二十八番)

宅合名會社分莊

本號前在營口東營元神廟街自造日本酒澤鶴印并一切雜貨其名譽已傳播於滿洲全地矣今又擬在西營子老爺閣街同盛德院內分設支店一所發賣綿絲粗布火柴絲布絨衣荷標布手巾花巾東洋緞子洋胰鐘表貨物俱全而價值尤格外從廉且貴客賜顧時另派有一華人宋厚田氏細心接待以便商議一切凡中外士商賜顧者請辱臨為幸

運輸部

這般特得官准開設火車轉運行於東西兩店幷牛家屯分此殊以李吉市田彫超等之華人敏活細心以責任欲膺事與本業賜顧幸甚

總司理人田中賴之助謹白　電話 東店五五 西店一[illegible]

東盛和

本號在營口創設二十餘年專辦出口餅油豆各等土貨進口棉紗布疋火柴洋麵糖煤雜貨發行並滙兌銀錢兼代客經理買賣租船裝運事宜營口廣東兩處自建碼頭能泊輪船二艘棧房地方寬大凡泊輪船裝卸貨物極為利便囤貯油餅豆米麥更為合宜兼置有輪船一艘名域多利能載重二萬担如有欲租船運貨及存棧貨物水脚棧租格外從廉貴客賜顧請到小號面議是荷

總司理人葉亮卿謹白

東永茂

本號在營口創辦油房生意多年以本營業非祇做油房壹事及經理買賣雜貨布疋等物并代客莊運汽船配載事宜三井行與本店素孫交厚並與各南北客經理有年誠信相孚遐邇知之

正理事潘玉田　副理事金德魁　設在營口西北街路南

西義順

本號開設營口西街老爺閣前路南警乙第五號專管裝卸輪船上下各貨照料穩妥堆棧寬大凡中外　士商賜顧者請認明招牌決不致悞

本主人敬啓

仁裕號

係裝運各物火輪船生意兼賣各幫洋什貨糧石等此佈

營口西大廟街路北警乙第十二號

代代木烟公司

本行專售　日本官造紙烟　星象牌(斯達)櫻花牌(撥利)百合花牌(利利)均已馳名內外玆特選上等烟料加工精製雙仙鶴牌(隆沽來福)清香撲鼻佳美適口而價值極廉　諸君欲請可向敝行或請至本行公司代理店西營口大德元採買庶不致誤謹此廣告

永順洋行

本行在東京開設三百餘年專辦布疋此次得大日本政府特許般運各色布疋手巾綢緞綿子法蘭絨等貨來埠發售顏色鮮明俱照中國土布家機自染決不退色價亦格外公道官商光顧請到本行面議

西北街　東櫃(電話九十五番)
西義順棧內　西櫃(電話架設中)

三井洋行經理

明治火險公司

本公司開立已久分行上海、香港、天津、各地方中外馳名一核章程仿英例一式遇事克已秉公以廣招徠有願保火險者請至本行面議　(電話六十六番)

㊂丸三洋行分莊

啓者本行開設於元神廟街精工自造羊肚手巾東洋緊身洋式襪子以及各樣雜貨俱全無不精美價值格外從廉賜顧者請光臨本行面閱是幸

丸三洋行分莊謹啓

生徒募集

今般本院に於て在留邦人子弟の為め尋常小學部を設置し嚢に督促書を差出したるも尚遺漏の分もある可くに付特に廣告候條學齡者は至急本院へ照合し入學手續を為すへし

營口 瀛華實學院

營口瀛華實學院招入學生

本學院肄業諸生頗着成效惟是從去歲常有陸續來學者本學院雖亦收入然班次不齊以致授課之時諸多未便茲因添設樓宇地勢寬宏學生宿舍各種器具無一不備現擬招入學生俟額數充足即行擇期一律入學有志願學者速到本學院報名每日上午九點鐘至下午兩點過期不候特白

營口瀛華實學院

啓者本行開設在東營口輪船代理店海上火險公司及報客稅已有年矣今承關東總督府之特准開設東清鐵路公司運送貨物自牛家屯大連至昌圖府均有分棧大連鐵嶺另有分行幷各有中國人辦事今又設理雜貨生意專辦上等石炭棉花火柴洋布旭牌卑酒日本清酒一概俱全另有清國人執事如蒙中外士商光顧請來元神廟街爲荷

本行汽船　摩耶山丸　賴朝丸　專往東洋各埠

松茂洋行(電話五十二番)

聲明丟失滙票

啓者於清歷正月二十二日有營口永同和在阿什河買和順昌匯票兩張計該號昌字十七號永記名下　平銀五仟參百五拾兩整又拾八號功記名下　平銀二千六百七十五兩整均係二月二十五日准期營口付銀此票係於正月二十二日由阿着合盛信局捎營不料路中丟失今已向該營分號掛號說明此二票無論失落何人之手作為癈紙望各中外　官商切勿收用特此登報聲明

清歷二月二十四日

永同和主人啓

失票聲明

啓者本號於本月十四日接省城來電云有阿什河寶泉長在阿由和順昌匯妥長記名下平銀一千零柒拾兩整係昌字二十八號至營交與本號代取此票托友携營不意行至奉天車站偶逢匪人竟設僞局詐去當即寄電之後本匯主業已來營即至同興宏內厲和順該二家自昔頗有相契刻間已將此匯款如數使出倘有　官商拾得此票者即作癈紙特此聲明

二月廿一日恒增通主人啓

飯塚工程局　材料出售

(電話八十一號)

啓者本局今特與日本北海道天鹽木料公司商訂以日本輪船運到各種木料品質精良久已馳名四遠以之架造屋宅及製各色傢具無不合宜且價值格外從廉克已凡中外士商賜顧者請來本埠東營口元神廟街本工程局面議不悞再本十新到各種木料東洋炸子貨眞價實以應各主顧急之需　國本主人啓

㊊東清鐵道　裕和盛運輸局

在東營口西北街旗昌洋行對門

啓者本號向在日本長崎開設數十年幷分店在朝鮮國漢城仁川木浦旅順烟臺營口鐵嶺等處專賣中外雜貨疋頭食物器具酒烟兼代客報關裝船裝車今又承辦東清鐵道運輸局代客裝運貨物各車站均設分局格外周到不悞主顧

總司理主人　周鶴雲
運輸部主任　高濱麟太郎　謹啓

營口商業學校招入學生

本學校由客春開學以來肄業諸生頗著成効茲因添建樓宇增設講堂應需器具種々皆備現擬招入第二次學生

宗旨　造成辦公實業家
學科　修身、漢文、詞章、習字、算術、圖書、地理、歷史、理化、商律、簿記、理財、商品、商業學、日語、英語、体操
學額　五十名
資格　十五歲以上文理明通者
學費　特免惟寄宿生自備饌資餘皆本校墊辦
入學　陰曆三月初一日
夜班　專為有志向學而白晝忙於謀生者計每晚兩點鐘之功課授以漢文算術商業學日語以一年為限

○欲覽各樣詳細章程可到本校索閱

一、東清鐵道貨物取扱
一、貨物集配
一、瀛車貨物積卸シ

右は安全、速達、誠實、廉價を旨とし精々御便宜を計り申候間多少に拘はらず御出荷奉願候

關東總督府特許

營口西北街(電話一八番)
牛家屯停車場構內(電話四六番)

丸重洋行

聲明假冒

協泰昌與記絲號大有昌洋雜貨號外面並無作保等情近因同字號最多恐有假冒本號圖章特此聲明

本號主人白

上海 中井洋行

專運日本各式紙料

本行開設已歷多年曾與日本製造名廠訂有專銷之約凡新聞紙料印書辯各式紙料莊票包棉紗料草板紙張日本機器連史紙五彩印字連墨其他各件紙料一切統由本行出售貴客惠顧請至江西路五十一號門牌可也

中井洋行

自造煉瓦●瓦

並に各種石材販賣

營口青堆子

加州組

(電話八十六番)

今回弊店に於て明治火災保險株式會社代理店引受候に付き建築物、商品、家具、什器、一切の火災保險精々御便利に取計可申御用被仰付度願上候

三井物産合名會社

牛莊支店　(電話六十六番)

●雜貨卸小賣商
●附日用食料品
●菓子製造販賣商
●委托販賣商
●土木建築受負業
●瀛車積運送業

新民府孫家街

東洋號

東京電報

●内國債應募總額　内國債應募總額二億七千二百八十萬九千一百圓其内、外國人應募額五百五十萬圓あり

●膠州總督への勅語　獨乙皇帝は膠州灣總督に對し左の勅語を賜へり

朕は膠州灣總督に閣下の敬稱を授け其在職中歐洲以外の地に之を用ゐしむ

●臺灣震災死傷數　臺灣震災死亡者千百零六名重傷者七百十五名輕傷者一千百四十七名潰れ家屋五千九百五十二戸なり

●馬政局の設置　四月早々馬政局設置せらるべし

●英國提督の着期　英國前東洋艦隊司令長官ノーウエル大將今明日中に横濱に到着すべし

●清露談判と營口關税　清露談判の一個條たる營口關税拂戻問題は列國との關係ある爲め露國も之を承諾するに至れりと

●佛商の銀行設立計畫　佛國商人ハシヤマンは浙江省の紳商と合同し四百萬兩の資本を以て北清銀行設立の計畫中なり

●南昌教案と清佛委員　南昌教案に關し清佛兩委員は交渉を開始せりと

●本野公使の謁見　本野駐露公使は信任狀の到着を待たず二十三日露皇に謁見せり

（以上三月二十三日發電）

倫敦電報

●彈劾動議と修正案　英國衆議院に提出されしミルナー卿彈劾の動議は消滅に歸し殖民次官チヨルチル氏の動議せる修正案は百三十五票に對する三百五十五票の多數を以て可決されたり

●濠洲政府の厚意　濠洲ニユーゼーランド政府は日本の饑饉民に贈與すべき物品の運賃を負擔することに決せり

●議事進行委員の申告　英國衆議院の進行委員は午後三時を改め二時より議事を開き晩食時間を廢して十一時半に散會すべきことを申告せり

●南阿礦業と印度人　南阿トランスバールの鑛業家は印度人を輸入して勞働に從事せしめむと種々計畫中なるが氣候の變化より死亡數を增加するの虞あるを以て實行は頗る困難なるべし（以上三月二十二日發電）

雜報

再び遼河運河開鑿の議に就て　遼陽　戸水汪

余は曩に、遼河運河開鑿の議を建て、之を貴社に投し（二月十六日發刊、第二百六十號參照）江湖の至教を待つ、余の迂論鄙説を以てせす、遠く書を寄せて、或は口すから是正を忝ふす、而も悉く先輩朋友ならんとは、余は諸君の厚誼に敦きを感謝し、爰に叙列す

第一　遼河は高低の度、甚しき爲め、迂回あるにあらすや、

コハ先輩神野良君の説なり、牛莊と遼陽との距離、甚た遠とせす、而して寒暖の度、約十度の差違あり、或は恐る、兩地間の高低甚しき爲め、爾かく寒暖の相違あるなからんか、高低の度、甚しければ、迂回の河流を直截する能はすと、然れども、斯の短距離に於ての高低は、之を肉眼に目擊するを得へし、東清鐵道に搭乘して目睹する處、絕て觸目するあらす、憶ふに、遼陽、營口間の距離短きも、北極圈に近くに因り、此の相違をなすならん、遽かに推斷するに難し、爰に先輩の注意として掲け、實測踏査の日を待たんのみ、

第二　遼河全河を直截するも、獨り田庄臺口間は、迂回ならさるへからす

斯論も　師受する平岡佳吉君（平岡組主人）の口頭より出す、君曰く、汝の滿洲發展の爲め、遼陽の繁榮を策する爲めに、議を建つるは、多とせさるへからす、斯議の如く、遼河一線の直截は、或は可ならんも、獨り爾かく田庄臺、營口間の紆曲迂回は、水利上よりたるもの、之を直流に至らしめは、今の營口は濫氾横溢して、倏ち滄桑の變をなさん、曰く生は暗ふして、水利を知らす、遼河を直截して、營口をして、斯の非運に至らしむるも、知るへからす、余説は、惟た大局を綜ふるのみ、敢て枝葉を問はす、梓杞連抱は、數尺の朽あるも捨てす、余議の徹底すれは、田庄臺の一角のみ論せんや、君の周匝なる至教を爰に掲く

第三　一坪立方の土砂を發掘する賃金一圓とするは、杜撰の算當なりと

此の非難は、親友中辻喜次郎君（盛進商行主人）より、余に向て與へられたる處なり、方一坪の土砂を發掘する容易ならす、避遠寒村の人夫を使役すれはとて、金二圓已上を要すと、然り余も亦た思及せさるにあらす、然れとも、平和克復後は、苦力賃漸く下落して二三十錢の間を往來するならん、且つ夫れ、余は立論者にして、未た實行家にあらす、大聲疾呼して、天下に提唱するは、惟た資本金の少額なるを可とす、若し一坪立方の掘立費を二圓宛に改竄すれは、總資金百八萬圓は、加倍して二百十六萬圓となる、是れ滿洲發展の帝國事業として、僅々なるのみ、畢竟の立論は、余の天性に出す、暫く記して、實測者の推步を待つ

第四　何故に結氷期に實地踏査に着手せさるや

斯れも、親友小泉市太郎君（加州組主人）及ひ同組員荒木鐘一郎氏に因りての忠告なり、殊に荒木氏の如き、自ら踏査の任に當らんとの覺悟なりしと、今や殆んと解氷期に接す、又た一年期間を曠ふせさるへからす、豈十菊六菖の歎なからんや、曩に知人某氏は、自ら其事を付擔し、實測踏査することを約束せり、而して今何處にあるや、遂に今日の悔を貽す、浩歎に堪へさるなり

然り帝國の滿洲發展は、永久の問題なるや、將た期間の問題なるや、余輩暗ふして、之を知る能はす、惟た滿洲發展策に於て、遼河運河開鑿は、焦眉の急務ならんことを信す、則ち爰に諸家の評騭を掲けて、前説を敷衍す、

序に曰く、平岡君（君元日鐵會社技師長）の談に、東清鐵道は、今日の儘にても、一日二十回を運轉せしむるを得と、然れは余の曩時論述せし十六回よりも、多く運輸力をなし、余の打算に異動を生す、

又日鐵會社經理部長久保扶桑氏の「東清鐵道と遼河」の一篇（二月九日、滿洲日報第百五十四號參照）東清鐵道は如何にするとも、遂に遼河に勝つ能はすと結論す

余は決して東清鐵道と那河の優劣を爭ふにあらす、東清鐵道と云ひ、遼河と謂ひ、源泉に天下の大無盡藏の寶庫、撫臺、而して烟臺を控ゆ　如何に輸送力を增大に速るも、源泉の枯渇することとなし（撫順炭の面積三百萬坪、其含炭量實に三億八千四百萬噸にして、一日五千噸を出炭するも、二百餘年の歲月を繼續す）又た或る炭礦通の烟臺炭踏査談を聞くに、同炭は粉炭にして、無烟なり、火力强し、汽車、汽船の燃料には、或は可ならさるも、余の前説敷衍したる如く、遼河沿岸の諸工業を發達せしめ、及ひ高梁燃料に代ゆるには、最も適當なるを信すと、又た煉炭として海軍に使用すれは、優に英國煉炭の輸入を拒くことを得へしと（海軍のこと、帝國の機密に涉り、余輩の口吻に上るへからす、依て略す

以上の論説の如くなれは、余の迂説必すしも齊東野人の言のみならん、前説を補綴して再ひ大方の至教を待つ

●遼陽邦人の職業別　遼陽軍政署警務課の調査にかゝる最近本邦人の職業別を得たれば左に記載することゝせり因に一人にして數種の營業者あるも其內の主なる一種を示す

遼陽在住本邦人の營業別

營業種類	數	營業種類	數
飲食店	二八	建築請負	四
旅館	一七	菓子製造	一八
理髮業	四	官製煙草販賣	一
豆腐蒟蒻製造	六	大工	二
湯屋	二	洋服仕立業	一
篆刻印刻	一	下宿	一
料理店	三五	寫眞業	三
遊戲	一一	刀劍販賣	一
鳥牛肉野菜街／產物販賣	二	日清通譯	一
醫師	一	綿布	一
雜貨商	四一	女髮結業	三
貿易商	二	牛乳搾取販賣	二

諸器械販賣	二	土木業	二
劇食物	二	賣藥	五
材木商	三	齒科治療	一
酒醤油味噌	五	官衙用達	
時計及修理	一	雜貨食料品商	
洗濯業	二	行商	一
代書	一	穀物商	
		硝子商	二
		陶器漆器商	二

●外國船の入港　諸威國商船太古號昨日午後零時十分天津より入港せり船客清人苦力一千二百零七人なりと云ふ

●與倉軍政官の東京出發　營口軍政官與倉中佐は一昨廿三日東京出發の電報其筋に達したりと云ふ因に同中佐は歸途熊本に立寄るへしと

●本願寺の日曜說敎　當地永世街本願寺出張所に於ては定例に依り本日午後一時及七時（但し營口時間）の兩回日曜說敎を開きて（成功と人生）との演題に就て寺本布敎師より說敎あるよしなり

●兵士の葬儀　牛家屯守備步兵第六十一聯隊第三大隊の故陸軍輜重輸卒小宅定次郎氏は去る廿日病死せるに付翌廿一日午前十時牛家屯の陸軍墓地に於て其の葬儀を營まれたり當日式場に於て寺本布敎師の燒香弔詞に繼ぐに津田大隊長の弔文朗讀あり終りて寺本氏の讀經三上聯隊長及各將校及戰友總代の燒香ありて頗る鄭重の式なりしと云ふ

小説

新作小説　おとし胤（二十）　徳田秋聲

殆んど事は、決定して了ツたやうなものだ。最早何も考へることも無ければ騷立てることも無い。雖然巨漢は、何か深い工夫があるやう考込むでゐた。

健三はまた、何んの譯があツて、此の巨漢が、此樣なにも光のことを心配するのかと思ふと、それが不思議で耐らぬ。何しろ此の巨漢は、合田の仲間の者で無いことは解ツた。眞實光の爲に盡さうとしてゐることも解ツた。彼は次第に此の巨漢を疑ふ心が薄らい來た。

少時してから、巨漢は何か非常な決心をしたやうに謂ツた。

「可かん、可かん。俺は、何うにでもして、光さんを東京へ行かせぬ工夫をしなければならない。東京へ行ツては、此の墓に對して相濟まん。……」

「けれども、何んと謂ツても駄目です。其樣なことをいふと、反ツて餘計な心配をさせる位なものです。」

「いや、少し位心配させても管はん……少しは無理なことを爲ても可い。それでも東京へ行るよりは、光さんの身の爲だ……だから此の手紙は、兎に角光さんに渡して呉れ。」

「渡すことは渡しますが……」と健三は、若切らぬ返事で「併し何んぢやありませんか。彼樣なに行きたがツてゐるものを、無理引止めなくとも可いぢやありませんか。俺も始海鹿家の事情、光さんの身の上を聞いた時には、東京へ行ツては可けないと謂ひました。けれども能く考へて見ると、何しろ親子のことですから、光さんのいふのも無理は無いと思ひました。それで矢張光さんの心委にした方が可いと思ツて、後程逢ツたら然ういふ積りでゐたのです。」

と思ふところを隱さずにいふ。

「成程お前のいふところは、一應道理だ。雖然他のことは謂はぬとして、此處に一ツ何うしても光さんが東京へ行かれぬ故がある。光さんが東京へ行ツたら、誰が寛齋先生の世話をするのだ。そりや眞實の親にも逢ひたからうか、生れ落ちると育てられた老體の祖父樣を何うするのだ。海鹿家では、那の德の高い老人も一所に引取らうとは謂はん……引取るどころか、老人を何うしやうとも考へてゐない筈だ。」

「それです、それです。其の事に就いて、光さんも大變に心を痛めてゐるのです。其の事があるばかりで、心は東京に飛んで行ツてゐながら尚だ何うしやうか此うしやうかと考へてゐるのです。それで昨夜も寢なかツたといふことだ。」

「然うだらう、こりや然うなくてはならぬ譯だ。其の心配一ツでもう、光さんの東京へ行くといふのは餘り幸福ぢやないぢやないか。」

「けれども、其の事は、光さんもう何も心配することはありません。多分心配なさらんでも可からうと思ひます。」

「何故……何うして？」

「俺が、光さんに代ツて先生のお世話を致します。」

「お前が……」

「はい。俺が然うしたら、光さんも其樣なに心配せずに東京へ行かれるだらうと思ひます。そりや俺も光さんの東京へ行くのは可けないと思ツてゐます、けれども俺は光さんを苦しめたくない。俺も光さんに此處にゐて貰ひたいけれども、」と謂ツてさも謂艱さうに言惱むでゐて、「俺も其の方が幸福なんですけれども、それでは光さんが苦しみますから、俺は斷然光さんに東京行を勸めることに決心したのです。」

「何んといふ高い心を有ツてゐる少年だらう。實に見上げた心だ」と口にこそ出さなかツたけれども、巨漢は、心の底から感服して、そして謂ツた。「成程！いや、お前は實に、立派な精神だ。お前は天性の理想家と見えるな。戀も然う精神的になると、高潔なもんだ！」

併し健三には、此の戀といふ意味が解らなかツた。それでけろりとして、

「俺の想は、まア此うです。けれども其の手紙は……手紙は確かに光さんに渡します。」

「何うか然うして呉れ。光さんが聞かうと聞くまいと、兎に角俺は盡すだけ盡さなければならんのだから。可いかね、確に頼んだよ」

「承知しました！……」

「併し貴方は誰です。」と健三は、きツぱり謂ツて「何うして其樣なに光さんの爲にお盡しなさるのです。」

「俺か。俺は那の墓の下の人の爲に盡すのだ。」

「光さんの阿母さんの爲に？……」

「然うだ。何れ俺は、お前と親友となツて、名前も名告り、身の上も打明ける機會があるだらうと思ふがね、今日は何も謂はぬ。ぢや此の手紙は改めて預ける………」そして、「それぢやこれで失敬するよ。」と謂ふが疾いか、彼は素早く傍の林の中へ潜り込むで了ツた。

投書かご

▲元神廟街某雜貨店の引入れ女房は元日本から大工と驅落して朝鮮に行き其男で足らず他の男を連れて滿洲三界迄來り現に今の雜貨店の手植撫子花でありながら又或男に手を出して居るそんな女にうつゝを拔かして居ると家門破滅の基に爲りますぞ其れよりかちつと店員の優待法でも講じて營業專一に勉强が肝心だどうだ髯殿（鼠小僧）▲近頃投書籠に平野町を魔窟々々と能く書てあるので山金の婆さんは非常な憤慨であつたよ平野町と言つた所がさう曖昧な所許りでは無い自分の處などは割烹店として居れ神聖無垢であるそれに他に正業を爲して居るものは澤山あるぢや無いかと大氣焰であつた（立聞生）▲祇園閣の一筆丈、お俊坊、お新姐さんは近々の中揃ひも揃つて御慶事とは芽出たし〳〵（嗅付生）▲再び求業生に告ぐ先達宿所を御知らせ相成しも餘り小さな小片れに書きありし爲め先日の吹雪が編輯に荒れ込み吹き飛ばし申候間御手數ながらもう一度少し大きなものに書きて最寄投書函に御投入相成りたし（本欄掛）

●婆さんの深はまり　三十振袖四十島田と云へどこれは亦四十面下げての厚化粧、若い男の跡を追廻して飛んだ日高川の二の舞を演じたるお話あり、生れは山口縣大島郡の者にて姓不詳クキと云ふは既に四十を過ぎし姥ざくら今は花も實も無き眺めも久しからぬ女昨年秋頃當地に來り小世街の某方にて下働きを勉め居りしが其内に番頭の某と云ふ巳が息子程の男と不思議の緣を結び久しく夫婦同樣の暮しを爲し居りしが時折り例の燒餅喧嘩とやらを始めるで某方にては持て餘し仕方なく婆さんに解雇の宣告を與へたれば婆さんは元神廟街の櫻に因める某家に又も下働きをなし居りたりしが其後某はクキに秋風立て其關係を斷たんとすれど惡女の深情け陰に日向に付きまはりて離れねば一時は殆んど某も途方に暮れ剩さへ他に好き花を得たれば益々クキに厭氣を生じ其爲めに或人の仲裁にて關係を斷たんとすれどもいつかな聞入れず某も愈々進退谷まりて四五日前奉天とか鐵嶺指して逃げ去りたる所何れより嗅ぎたるか狂氣の如くなりて今は嫉妬の炎に氣も逆上して其跡を追行かんと軍政署に至り昨日旅劵下附を願出たりと果て扨て

汽車

▲上行車時刻表

車站名	開午點分	到午點分
新民屯至溝邦子	上六、〇〇	上九、五七
營口至山海關	上八、二〇	下六、〇〇
山海關至北京	上一一、一八	下六、二〇

▲下行車時刻表

車站名	開午點分	到午點分
北京至山海關	上八、〇〇	下六、二〇
北京至天津	上一一、二〇	下五、四一

稅關手續

一、船舶輸出入荷物取扱
一、荷物保管
一、日本艀船部、回漕部

弊店儀從來平野町に於て左の營業致し居候處此度商業擴張の爲左の所へ移轉仕候間倍舊御引立の程奉願上候

諸鐵工製作　營口ブロツ　川鐵

天氣

營口地方天氣豫報　自三月廿四日午後六時至三月廿五日午後六時

日報倶樂部

●雪を觀る　凸坊

春雪融け易し、今年の雪は復た見る可らす、泡喰て家を出づ。立ち止まりて矚望せるは、旗昌洋行前なる遼河の畔なり。數日前迄は泥に塗みれたる一面の氷も、奇麗に洗ひ去られて、江水は漫々として流るゝ所、已に我目を新たにせるに霏々たる綿ぶし雪は飛んで鷺毛の舞ふが如く、散じて落花の風に飄るが如し、チャンの艀卅、飛雪を浴びつゝ漕ぎ去り漕ぎ來るあれば、二三の帆船さへ風を孕んで上下するあり、滿目の風物、總べて是れ詩趣に非ずんば則ち書趣、營口亦此閑靜幽寂の趣を得る、未だ遽に見捨てたるものに非ず。況んや營口の雪は觀るべく、營口の船は觀るべしと雖も、而も雪と船と併せて之を一眸に收めんと、獨り多雪の今年を以て然りと爲す。河に沿ひブラリ〳〵と歩を運べば、何時しか公園の脇に出づ、遙に牛家屯の瓦屋新築然として見ゆ。公園に入り亭下に憩ひて眞を燻らす、園内の枯木、枝々皆玉を綴りて時ならぬ花を咲かし、營口の岩谷天狗然たるブッシの赤き煉瓦は白雪と相映じて興趣殊に深し。良ゝありて外人の夫婦連れなるが、互に手を携へ、左顧右眄、雪を愛でつゝ前を過ぎ行く、碧眼の人、亦個中の消息を解するは殊勝の至りなれど、獨身者の前を無遠慮は、ちと失禮に候はずや。廣くもあらぬ公園を、東より西に西より東に、幾たびかさまよひ廻はり、去年此頃は恰も身征戎の軍に從ひけるをなど思ひ出し、偶然已れに反りて四邊を見廻はせば、今迄白布を晒らせる如き無垢の清境も、已が從軍紀念靴に踏みにじられて、靴痕滿地、頗る狼藉の體なり。自ら殺風景の風流に驚きては、暫くも居堪まらず、晩鴉塒に歸る頃ひにてもありたれば、又泡喰て家に歸りつ。

●我輩は喰黨である（中）　遼南逸人

▲已に食物が人間の精力を養ひ人間の頭腦を養ひ人間の品性を養ふ唯一の必要條件とすれば其食物の選擇法は如何なる標準に據るべきかといふと第一が滋養分に富むと第二が消化し易いと第三が美味いといふことである▲滋養と消化との二條件が食物に必要なることは誰れでも説く所であるがまだ世界には美味いといふことを等閑に附して居る者が少くない美味い物でも不消化で滋養と爲らぬ物もあるが滋養ある物消化すべき物をして益々其効力を發揮せしむるは何うしても食つて美味いといふことが無くちやならぬ▲美味いといふことは食物其物の固有の性質にも因るが一は調理の仕方によつて折角美味い物も不味く爲つて了ふ平生我々の食ふべき食物の種類は大抵定まつて居る其定まつて居る食物を毎日毎日繰返して食ふのであるから調理の方法は非常に甘くやら無ければならぬ▲調理の要は第一が包刀の切れ具合である第二が塩加減である第三が火加減である第四が取合せ方である第五がそれを盛るべき器物及び陳列法である▲何んだか斯く並べて書けば料理といふものは極めて小六ツケしいものであるが生命の親とも恃むべき食物であるからそれ位な手數と用意とがあら無ければならぬ▲如何に材料が好くとも料理の仕方が不味ければいかず料理が好くともブザマな物に盛つて出されたりしたら喰へたもので無い或人は食物といふものは眺めて樂むといふ事が食ふといふ道樂以外の道樂であると言つたが我輩も至極同感で食物の見えが好いといふことも慥に其條件中の一に加へ無ければならぬ▲營口のやうな片田舍に來て御馳走を食ふなんかいふのは極めて無理な注文であるが併し御馳走は必ずしも原料許りが好くとも美味く喰へるといふもので無くて料理人の腕でどうとでも爲るが惜むらくば營口では腕のある料理人が居ても社會の要求がまだそれ丈けに進歩して居ないのであるから酒と謂つたら唯醉はせるが目的で料理と謂つたら飢を醫する位に止まつて居るのは殘念である▲併し或二三の飲食店に於ては御馳走專門の處も無いではないが如何に御馳走丈け好くとも御馳走を食ふ丈けの周圍の設備が整ふて居ないので折角の御馳走がどうしても我々には御馳走と爲らぬ それは無論專門飲食店其者の罪では無くて營口其者が未だ立派な專門割烹店を要求する丈けの進歩を爲して居ないのである

●骨董録

頃日清國人間には、排外熱とか排日狂とか云ふ嫌な病氣が流行するそうだ、既に事實として現はれたもの丶中上海事件やら南昌事件やらは世間に知れ渡つた著名な話である そこで我内田公使よりは夙に清國政府へ警告を申入れ又米國では軍隊を比律賓へ派遣しスハ鎌倉と云ふ時の準備をして居るそうだ、抑ゝ今日清國民をして斯かる形勢に立ち至らしめた源因は種々あるべけれども官尊民卑の甚しき清民の仰いで以て師表とすべき上流大官連中の或る者が故意ではあるまいが不識不知の間に彼等を皷舞作興した行爲も亦一の源因となつて居りはせまいかと予は疑ふのである何故予は斯樣な疑を起したかと云ふに、幷は下の一話を漢字新聞で讀んだからである。遼東の豚かも知れぬが予は一應其話を讀者に紹介しやう。清國通州に潘某なる者あり、（蓋し日本へ留學中有名なる退學事件に加擔したる學生中の一人ならん）日本よりの歸途韓國仁川に寄泊し、當時韓國の國情を聞き、隣家の痴氣を頭痛に病み、興國の淪亡聽くに禁へずとか、同種の摧挫覩るに忍びずとか一種悲歌慷慨の囈語を吐き乙ナ魯仲連を氣取り韓海に投じて大魚の腹中を肥したりと云へる排外熱大患者があつた。所が清國民は此大患者を以て烈士とか憂國家とか稱へて持て囃し就中方今滿國大官中最も進歩せる先覺者を以て稱へられたる直隷總督袁世凱氏は悲壯慷慨なる吊詞を贈りて此發狂溺死者を追悼したに至りては呆れてものが云はれぬではないか、ついでだから其輓辭をこゝに掲げよう。吾子已矣回舶奈何可憐志士輕生覚化怒濤飛大海 諸君勉之匹夫有責願結國民團體共扶義檣挽狂瀾 通州潘生子寅自日本歸道出仁川感韓事憤極投海懐才未展飲恨以終聞其風者當以生之心爲心而覚其未竟之是即可以善效生者也 項城袁世凱題贈。多少文明の風氣を咀嚼して居る袁氏すら斯んなことを爲るのだから、其他の人に至りては何んなことを爲るか知れたものでない。

乘春晴自訪秦英舫氏邸席上氏約失題聯吟以眞韻即可　大石橋　岩城黄雨

起　岸柳纔黄半是春　英舫
承　那知十里訪吟人　黄雨
轉　寒梅瓶裏酒詩會　英舫
結　相對忘機雅興新　黄雨

同

起　客舍靑靑柳色新　英舫
承　集賢舘裏會幽人　英舫
轉　遠山近水饒詩趣　黄雨
結　先賦石橋第一春　黄雨

新民府解氷　犀陽

春信漸開雪誘花　結氷方解水浸霞
東西有道如江漲　南北無橋豕涉波

雲雀　梅の里人

朝ぼらけかすめる野邊を逍遥は　そらに雲雀の聲ばかりして
久方の天行く雲のなかみかも　聲ばかりして姿見えねば
すみれ咲く野邊の朝露ふみてぼし　あがる雲雀の聲のすゞしさ

◎都々逸

一寸晩酌の一杯機嫌。高い藝者を聘ぶも憂し聘ばぬもつらし、エ丶三味の皮より儘の皮、六枚張の滿洲日報操り擴げ、廣告中の料亭へ無錢遊興、梯子の數も六ツ七ツ、口三味線にうなり出したる都々逸は、世間へ恥も覺悟の前、罪作るより歌作る　愛國喜艶

洒蛙禮者は粹樣先刻御承知の
中に吉住更け行く夜半の千鳥も嬉う耳に立つ
互の中川つい隔てられ逢ふに逢はれぬ沖の島
思ふ坪田にはまつて今は二人の中さへ吉野亭
心片山氣も高砂の松も操の幾八千代
和田の原出て今日此頃は新な世帶のまんなをし
心澁谷の身も晴れ〳〵と浮かれ〳〵し醉花園
逢ふは玉岡ゑにしの糸も亂れ初めたる柳亭

●營口奇觀

▲羊頭を掲げて狗肉を賣るとかや料理屋旅館の看板を掲げて如何はしき物を賣るナント營口の奇觀ではあるまいか▲下婢とは我内地にては女子の神聖なる一種の勞働を意味すれど營口にては賤業の別名否な公定名稱と爲る▲郵便局の時計は最も正確ならざる可らざるに營口郵便局の時計は眠り勝ちなり時計の眠れるは郵便局其者の昏睡を表明するに局長さん平氣の平左は驚き入る▲營口荒らしの土龍子は臺灣の落武者に多し試に辣腕の人を捉へて其經歷を質せば揃ひもそろひて臺灣の放免囚か脱獄囚ならざるは無し囚とは臺灣を一種の牢獄と喩への言なり三犯四犯固より其所▲營口の不景氣は目下其頂點に達す堂々たる大商店の門前雀羅を張るがお金の湧き出るとは不思議なり妓樓の繁榮は言はずもがな軍隊慰問慈善會義捐金孤兒院基金募集皆相當の成功ならざるは無し是れも不可解の現象ではあるまいか（△△坊）

盛京寫眞倶樂部

第一條　本倶樂部ハ盛京寫眞倶樂部ト稱ス
第二條　本倶樂部ハ寫眞術ノ研究家ヲ以テ組織ス
第三條　本倶樂部員タラントスル者ハ部員ノ紹介ヲ要ス
第四條　本倶樂部事務所ハ假ニ營口元神廟街三船寫眞店内ニ設ク
第五條　本倶樂部ハ同好者相互ノ娯樂ヲ謀リ兼テ寫眞術ノ研究ヲナスヲ以テ主眼トス
第六條　本倶樂部ハ毎月一回（第一ノ日曜）假事務所ニ品評會ヲ開キ部員ノ撮影シタル寫眞ヲ蒐集シ出席者ノ互撰ヲ以テ其等位ヲ定メ優等ナルモノニ限リ是ヲ假事務所ニ陳列シ公衆ノ縦覧ニ供スルモノトス
第七條　本部員ノ撮影シタル寫眞ハ此ヲ假事務所ニ保管シ置キ希望者アル時ハ（撮影者ノ承諾ヲ得タル上）相當ノ代價ヲ以テ讓渡スル事ヲ得
第八條　第六條ノ優等品ハ次回ノ品評會ニ於テ抽籤ニ依リ部員ニ頒ツモノトス
第九條　本部員ハ假事務所備付ノ器械附屬品及ビ暗室等ヲ隨意使用スルコヲ得ベシ
第十條　本部員ハ會費トシテ毎月銀三十錢ヲ出金スルモノトス

明治卅九年三月十八日

盛京寫眞倶樂部

發起人
黑澤禮吉　前田鋠次郎　後藤麟太郎　小河原政藏　小林隆雄　上野正則
稻垣伸太郎　相部政太郎　黑澤茂雄　齊藤健太郎　岩間善五郎　祠崎富三郎　三船秋香

和洋會席御料理

一弊店の特色は座敷廣くして大宴會に適當なり宴會の時は舞台に造附且又會費等は特に割引大勉强仕候

營口永世街一本町
日本館本店
各位樣

質屋營業

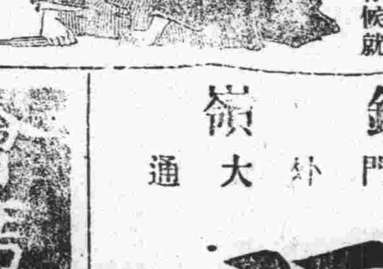
精々勉强御便宜相計り可申上候間多少に不拘御仰付け被下度願上候

營口南永世街憲第三十六號
北斗洋行質屋部

料理部開業披露

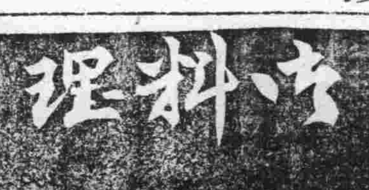
弊館是迄旅館專業に御座候處今般新に料理部を開設し聊か紳士諸君の御引立に報ひんと存候就ては座敷向き等も凡て改築仕日本式の粋を擇み藝妓仲居も弊店付として内地より二十五名計り呼寄せ特に料理は東京有名の厨士を聘し材料に乏しき當地にては不可得珍味佳肴を供すべく一切の準備相整愈々本日より安直を旨とし開業仕候何卒賑々敷御來遊の程偏に奉希上候

追而料理部開業と共に旅館部にも改良を施し御客樣の御便利御計可申候間不相變御引立の程願上候



旅館　第一營口ホテル
料理　第一樓

御手輕料理
一釜飯御一人前　銀五十錢
一湯豆腐一銅壺　銀二十五錢
一突出しの外は御注文なければ差上不申候



月　日
營口元神廟街二〇九號
翁亭

滿洲商家名鑑發行の趣旨

滿洲商家名鑑は滿洲各地に散在店舗を構えて業を營む本邦人を普く網羅し且つ著名商店の現況を仔細に描寫し店主若しくは主任者の閲歴性行等を詳録し汎く之を紹介し以て商業取引の圓滑融和を圖んとするにあり製本体裁は菊版本綴表紙總クロス三百餘頁とす

一寫眞廣告料二十圓　普通廣告料十圓
一特別廣告料二十圓　一部定價銀二圓

右發行人　安齋源一郎

◎滿洲商家名鑑原稿採集の爲め島音三郎を貴地に派遣いたし置候間同人御伺ひ致し可申恐入候得共相當御便宜御與へ被下度伏而乞上候也

在大連　滿洲商家名鑑發行人　安齋源一郎

營口各位

◎營口商家案内地圖編纂

右は滿洲商家名鑑附録として發行可仕尚製版印刷の上は特に一葉賣も可仕候也

廣告料　金六圓

同地圖に廣告なさんと欲する諸彦は營口元神廟街二三三鵜澤商店方島音三郎迄御申込を請ふ

北京　東單牌樓大街路西
扶桑旅館
客室清潔料理鮮新

鐵嶺　西門外大通
御旅館　御料理
福屋

會席料理
營口警務課前南へ
三日月

支那料理
滿月（平の町電六二）
滿月支店（平安町元都楼跡）
店主　吉木勝惠

萬事勉强乘車乘船好位置
營口中央市場前
旅館　東京樓
店主　熊田兼次郎
（電話百七十八番）

御席料理　和洋料理
東京樓支店
（電話四十四番）

西洋料理仕出し御需に應ず

材木 荒物 販賣

營口永世街第一八四號小野町
秋田洋行
本店 下關 秋田寅之輔商店

CARTRIDGES.

We have just received a large assortment of Sporting Cartridges for 8, 10 & 12 bore Guns which we are prepared to supply at moderate prices, cash with order.

Apply to,
BUSH BROS.

獵銃彈新荷着
第八、第十、第十二號獵銃彈新荷到着廉價にて販賣致候間多少に拘はらず御注文被下度候
但貸賣一切御斷申候
ブッシ商會

Yano & Co.
矢野洋行
Telephone No. 137 電話一三七

諸雜貨、家道具類、呉服反物、蒲團類、婦人用小間物、下駄、足袋、食料品、其他種々
今回新荷着致候間直段ハ極安價を以て御用に可應候に付何卒多少に不拘御用命の程偏に奉願上候
謹言

本家 日本東京神田鍛冶町 堀内大藥房
淺田飴（あさだあめ）
肺癆痰喘氣急傷風撲嗽小兒風痰病後體弱肺病一切立見奇功
◎たんせき一切◎肺病の特藥◎ひきかぜ◎病後のよわり◎弱き人の滋藥
有名賣藥醫藥醫科器械卸小賣
永世街 東瀛大藥房
房主 藥劑師中馬龍造

石材、碎石
並に自家製造 廉價販賣
瓦、煉瓦
營口元神廟街四十號第二號
順吉洋行

東營口郵便局東隣
島田洋服店
新民屯停車場前
同支店

御旅館 豐陽館
上海（電話一〇六番）
日本郵船會社荷客取扱
歐米瀛船乘船取扱
館主 米田藤吉

醇良自釀清酒

札幌ビール
朝日ビール
口付莨大和
酢
醬油瓶詰樽詰
菓子 鑵詰 色々
洋酒類
右取次販賣

牛莊港東營口
宅合名會社 營口支店

大日本東京 山崎帝國堂藥房處修 本舗
腦丸
天授
腦丸者天下唯一之腦病靈藥也腦病の名藥にして他に類なし
天授者天下多多有咳嗽藥中之冠也たんせき、ねつさましの一切の妙藥
大清國 營口大街（永世街二本町）
藥司洋行 淺野爲三郎 藥劑士
福壽堂 大藥房
醫械藥材 有名靈藥
○ 發賣處
總批發處

大連市信濃町卅九號地
旅人宿 東館
特別ト親切ヲ旨トシ且ツ廉價ニ御取扱可申候

軍隊用雜貨
日用品雜貨
呉服太物類
化粧品類
陶器類
食料品類
卸小賣
營口永世街七十號（第二市場東）
石原商店
其外新荷着精々安價販賣

清國營口二本町二五九號
發賣 材料 標子 木板
⟨一⟩ 塩川商會
主任 鹽川峯吉（電話一三六番）
遼陽・西門内 鹽川商會
外に電杜用材杉丸太長（自二十尺至三十尺）八千本
●建築用材北海道產松大角（自廿五尺至三十尺）二万立方尺餘
右之品多少に不拘特別安價を以て差上候條御入用の御方は御來臨被成下度候也

大日本政府特定
官製口付紙捲煙草
滿州一手輸入發賣
江副洋行
[illegible]街

雜貨 醬油 木炭
すし米 清酒 大樽 半樽
營口西北街
阪神組

官製口付莨、文房具
和洋酒類
鑵詰、菓子
藥品、雜貨
醬油瓶樽詰
防寒具、安價販賣
白米 卸商
營口西北街
（十）
豐生洋行
（電話十三番）

M. Iizuka,
CONTRACTOR,
ARCHITECT AND CIVIL EGINNEER.

Plans and specifications made to order.

ESTIMATES SUBMITTED.
MODERATE RATES.
No. 151 Yuwansinmiao
Ying Kow

御旅館
天津
芙蓉館
駐屯軍御用 並西洋料理

森病院
一診察 自午前八時至正午十二時 自午後三時至午後五時
一往診 午後三時より
△患者の入院治療を諾す
△貧困患者の施療は正午十二時より一時迄
△臨婦の入院を諾す（取扱主任産婆大塚しげ子）
院主 森 繁
醫長 鈴木昌平
營口永世街（電一五五番）

時刻

唐山至天津	上六、一二	上一一、二八
塘沽至北京	上六、〇〇	下一二、〇六
天津至北京	上一二、〇〇	下五、二〇
山海關至北京	上八、〇〇	下六、四五
天津至山海關	上六、二五	下六、二一
唐山至山海關	上六、〇〇	上一一、五八
山海關至營口	上七、〇五	下四、五五
溝邦子至新民屯	上三、〇〇	下六、五七

……保管可申候

市場北三階樓 時計店ノ二階
宮原公司

ペンキ塗請負京阪組
土木建築用鐵材料 其外鑄物諸般

門會 街東
喜場 豫報

昨日氣溫
昨日の氣溫 最高温度三十五度 最低温度十四度五
昨年との比 低廿三度九 低十六度八

宮門抄

二十七日
刑部 都察院 大理寺 廂紅旗值日無引見 新授浙江紹興府知府貴福謝 恩 麒德謝署缺 恩 肅王請假五日 桂公續假十日 榮肇定壽預備 召見
召見軍機 榮肇 定壽 貴福
清明致祭 昭西陵 莊王 孝陵 載瀛 孝東陵 壽公 景陵 敏璋 泰陵 順王 泰東陵 潤貝勒 裕陵 溥鈞 昌陵 溥昌西陵 塑公 慕陵 克王 慕東陵 意公 定陵 睿王 定東陵 睿王 惠陵 肅王 端慧皇太子園寢 全公 莊順皇貴妃園寢 克王
清明致祭 慕陵原擬崧杰奉 旨改遣載挑行禮欽此 定陵原擬魁斌奉 旨改遣載澧行禮 定東陵原擬魁斌奉 旨改遣載澧行禮欽此 惠陵原擬善耆奉 旨改遣溥倫行禮欽此 莊順皇貴妃園寢原擬崧杰奉 旨改遣載𣏌行禮欽此

上諭恭錄

二十七日奉
上諭袁世凱奏糸庸懦不職各員等語直隸容城縣知縣劉寅才具竭蹶粉飾欺矇遷安縣知縣孔憲廷暱庇劣紳縱容丁役署阜城縣知縣候補知縣冬之陽識見猥瑣操守平常開缺另補知縣凌洪才聽斷糊塗釀成人命候補知縣韋承霨怠惰因循辦事廢弛留直補用知縣李寶琳志氣委靡任意玩忽候補知縣金祖祺䪥預性成不知檢束均着即行革職肅寧縣知縣孫天運性涉疏懶馭下稍寬廣昌縣陸保善才欠開展用人不慎均着開缺另補另片奏順天武清縣知縣項壽埜性情貪鄙惟利是圖紳民捐助學堂經費格外需索又藉禁賭爲名任意苛罰魚肉平民實屬貪墨不職著革職發往軍台效力贖罪餘着照所議辦理該部知道欽此

奏議

戶部奏遵議粵省指還四國借欵無著奏請 飭部改撥緣由摺

奏爲遵 旨議奏恭摺仰祈 聖鑒事兩廣總督岑春煊奏粵省指還四國借款之闈姓捐銀因停止科舉捐項全無懇敕改撥一摺光緒三十一年十一月初九日具奏奉 硃批戶部議奏欽此欽遵由內閣抄出到部查原奏內稱籌還俄法英德兩欵本息銀兩每年指撥廣東闈姓捐輸銀四十八萬兩英德年分四次俄法年分兩次均解江海關道交納前因停罷武科舊商虧累減餉另換新商中間空缺不敷之數幾屆設法借墊現奉 諭旨自丙午科爲始鄉會試一律停止歲科考試亦即停止等因欽此是廣東闈姓捐餉從此全無所出即幾屆借墊之數新商無力措交亦且成爲虧累所有闈指湊還四國借欵每年銀四十八萬兩實屬無欵應付懇 恩敕部另行改撥等因臣等查籌還迭次借欵全賴各直省源源籌措力任其難間有籲請改撥臣部均未便率行議准良以各省庫儲艱窘情實略同既不能於彼議增自不得於此議減即以四國洋款而論原係均勻攤派各省籌還廣東攤派數內遂以闈姓的款指撥則此項洋欵遇有虧缺應仍由廣東設措茲據兩廣總督岑春煊奏稱俄法英德兩欵本息銀兩每年部撥廣東闈姓捐輸銀四十八萬兩現在鄉會試一律停止歲科考試亦即停止闈姓捐餉全無所出所有指撥闈捐還欵四十八萬兩本年英德還欵冬月一期六萬兩懇敕改撥等語科舉既停闈捐無著自應另籌的款以濟要需查兩廣劃辦膏捐近來收數甚爲暢旺又據該督電稱粵鹺積弊剔除更張辦理畧有端緒以上兩項均堪藉資挹注臣等公同商酌本年冬月英德還欵六萬兩爲期已迫恐有貽誤先由臣部電令該督即在本年所收膏捐款內如數撥解其常年指潑闈姓捐輸銀四十八萬兩自明年起准其由膏捐務鹺兩欵內勻挪湊集按期報解不得延欠相應請 旨敕下該督臣分飭司局各員如數批解毋誤還期所有遵議緣由理合恭摺具陳伏乞
皇太后 皇上聖鑒謹 奏奉 旨依議欽此

東京電報

●應諾國債募集之總額

日前日本政府募集國債刻下應諾之金額共三億七千二百八十二萬九千一百圓其中外國人之應諾者計五百九十萬圓云

●臺灣震災詳聞

此次臺灣震災實爲近日之最慘事據後報云因震災而死者一千一百零六名負重傷者七百十五名負微傷者一千一百四十七名而房屋之毀者實五千二百五十二戸之多云

●法商擬創設銀行

法商哈家滿氏與在浙江之華商共謀創設北清銀行現正在經營中其資本共計四百萬兩云

●中法委員議辦教案

對於南昌教案中法委員刻已開始交涉云

●日使覲見俄皇

駐俄日公使本野君不待信任狀之到已於西本月二十二日特覲見俄皇云
（以上西三月二十三日發）

中外要聞

●西寧平靖　聞內廷人云日昨西寧將軍電陳政府略云前因巴戎屬下多巴地方及貴法廳屬時有番民糾合土匪聚衆滋事曾經親赴該處查辦飭令地方官剿撫現已照常安堵不致另生他變云云

●英法美探詢俄約　日前英法美各國公使 外部密議事件係爲中俄之約已定各條問及外部堂憲聞唐侍郎亟未告知但言俄公使語甚和平議約亦無格外要索之事云云

●探東省開埠事宜　昨又有英美公使至外部詢問東省開埠之事並求外部得有東三省來電有關開埠事宜求堂憲去函達知等語

●江督要電　昨聞江督周玉帥來一長電略謂南昌教案查辦已有頭緒刻正詳細根究務祈大部不可允許法使要求庶免愚民暴動俟此案判定是非咎應在誰必即電達貴部再請核辦以昭平允云云

●垂詢直督　兩宮召見軍機垂詢政事之際議及直隸總督袁世凱近年頗能盡心王事垂問該督可否加以糸預政事之任並掌直隸山東河南盛京等省兵權着軍機政務大臣妥行會議云云

●日皇電謝 皇太后賑款　聞日本駐京內田欽使於二十六日接到日本外務大臣電於二十七日面謁慶邸請將日皇諭旨代奏 皇太后玆將日本外部原電譯登於左
皇太后鴻慈遠被駮惠遐敷特發內帑賑恤我邦東北災黎等因臣部奏聞 皇上感激 皇太后仁至義盡之舉着臣部電傳 諭旨表明厚謝之意煩貴公使妥爲傳奏

●英使要求路工　日前英公使至外部又與堂憲要求修築川藏鐵路語至再三或歸中英合辦必期中國允許

●勸集國民捐　慶親王今早在政務處與各大臣議商電達各省督撫以本藩臬道府州縣勸集國民捐云云各大臣皆以爲然聞由今日起均向各省發電矣

●講求女學　聞內廷消息 皇太后頗重女學每日諭飭皇后及各妃嬪等觀書講報日前曾傳諭近支王公福晉格格並內府大臣之夫人每月於三六九日進內研求女學宜講各書二五八日講習女工兼考究蠶桑事宜限於三箇月親自面試一次分別賞賜

●安置軍機處之供事　軍機處裁撤之供事俟將戶刑禮三部書吏逐出之後再將軍機處之被裁供事派入三部當差此聞政務處大臣所議也

雜報

●柳河溝水災　新民屯柳河溝河水大發已誌本報聞本勢寬濶三十餘里沖毀粮棧火車棧共百餘家所有粮石貨物損壞者不計其數云

●輪船到營　本埠河已大開昨日新到煙臺輪船一隻聞牛庄輪船亦於一二日內來營云

●郵政復通　省城郵政自日俄戰後久未通行商民重困近自蓋平郵局經日本軍署移交後省垣郵局亦於前日開辦自省垣至新民按日用郵差走送遞寄包裹以六磅爲止匯兌款項亦暫不能行

笑林

●孝廉變馬　某孝廉天姿卓越甫成童采芹食餼名噪一時惟性情傲岸父執多爲所輕年未冠弱高折桂枝氣燄愈高時乃翁尚未青一衿常諷之翁亦無如何也一日翁之老友因事過從孝廉高踞皐比與學徒口講指畫目若無覩翁之老友憤其妄因謂乃翁曰我等不遇於時因文字不能動人聽聞如哈巴狗欲吠無聲耳爾子昂頭仰頸冲上冲下眞乃大牲口也相與一笑而罷有知其事者夜間揭帖其門云孝廉眞少有父執若無睹兒子作牲口父變哈巴狗詩近俚而青年狂妄者當知返矣然揆之但願我兒爲騂角老大情願做犂牛之語無足怪

●主試相牛　都門爲天下人文薈萃之所心思巧雋外省莫及屬對佳者甚夥記不勝記某太史文名鵲噪人頗重之及某科放某省主考自以爲必得佳士入轂頭場四書文命題首藝爲子謂仲弓曰犂牛之子一章試帖題爲華嶽峰尖見秋隼榜發亦多名士入選太史頗覺快意惟解元破題中句係以相牛者相士人爭指摘之返京後好事者帖一聯於其門云飛來人似隼相得士如牛一時傳爲笑柄太史出身單寒常抱門第之恨平素爲人與上某孝廉相似是科四書文伊此命題蓋有屬意也然自居父角比肆以犂牛究與子道有虧閱者可以想見其人矣

NEWCHWANG, SUNDAY, MARCH 25, 1906.

The cloudless sky, breathless air, and warm, genial sun above, but the wretched roads below from the fast thawing snow were the order of the day yesterday.

The first ship to put in port this year was the Japanese steamer "Kinryomaru" from Chefoo that effected an entry last Thursday afternoon and, after clearing in safety her cargo and passengers, was beating a hasty retreat before the threatening floes in the evening, when she got stuck in mud below the West Fort, remaining there aground till sundown yesterday, as another illustration of the cynical saw, "The more haste; the less speed."

Four steamers, the "Huichow," the "Banseigenmaru," the "Honan," and the "Newchwang" came in yesterday. But the drifting ice still barring the shore, all have been compelled to cast anchor in the mid-stream. A considerable number of native coolies have been brought on board and landed by boats.

Mr. Segawa, the Japanese Consul, returned home last Friday evening from a tour of the interior of Manchuria, on which he had started on the 14th. inst.

The date for the 8th. debate, the last of the season, has been set on the 30th. inst. (Friday) to begin at 8.45 p.m., at the Assembly Rooms.

'Woman suffrage,' the subject previously adopted for next meeting, has had to be abandoned on account of no gentleman coming forward to dare to incur the certain displeasure of the fair members, by taking up the onerous task of opposing them, who are believed to turn out in strong force solidly in favour of the suffrage.

Conclusions will be tried on the substituted issue, "Whether or not the growth of socialism is a danger to the State."

A great deal of wordy fight has been carried on in the newspaper arena between Sergeant Adsetts and Mr. Bellew in arranging preliminaries for the contemplated boxing contest. It looks as though Mr. Bellew had the worst of it so far.

As punishment for a mild pitch-in he had delivered in the shape of a rather impertinent query, "Does he (Sergeant Adsetts) think that I (Mr. Bellew) will work up the show for nothing and pay all expenses besides fighting a man 20 lbs. heavier?," (Cf. the "China Review" on the 16th.) Mr. Bellew has received a stunning blow on the vitals in the form of a sarcastic reminder that "he had better stay at teaching *ladies* calisthenics at Newchwang," (Cf. the "China Review" on the 19th.) followed in quick succession by another telling 'knock-outer' that amounts to measuring his full length on the floor, by adding "Now I (Sergeant Adsetts) hope the sporting fraternity of Tientsin can see what a champion they have been thinking so much of in the past."

To an Asiatic uninitiated in matters relating to the 'Queensbury ring' in which fair play is said to be everything, it would seem to be the height of bad form, not to say sneaking cowardice, to make an uncalled-for allusion, however slightly or remotely done, in correspondence dealing with the terms of a pugilistic match, to the gentler sex whose tender sensibilities ought to be respected by their sterner brothers, especially by one who stands up for the cause of the manly art of self-defense.

We entertain serious doubt as to whether "the sporting fraternity of Tientsin," "if they are what we hold them to be, will be satisfied in the least with such an empty unmannerly show of punishing power, not with the fist but with the pen and that in the safe distance of hundreds of miles away, in seeing, as has been hoped by Sergeant Adsetts, "what a champion they have been thinking so much of in the past."

It is refreshing to hear that Mr. Bellew has got both wind and sand enough left in him yet and, being too impatient to wait 8 long months to come till his prospective opponent is dismissed from the service, has just despatched a set of proposals framed on strictly fair principles, at the same time offering a generous concession in point of weight.

If this proposal is accepted by the challenger, the real hand-to-hand contest is to come off at Newchwang, on April 15th next.

營口旅館料理店案內（いろは順）

旅館 第一營口ホテル 元神廟街九十六號

旅館料理 第二營口ホテル 河岸通り

料理 第三樓 元神廟街三十二號 店主 粕屋忠兵衛

料理 入船亭 永世街百八十三號 谷初次郎

旅館 日營ホテル 河岸通り 店主 井上源吉

料理 東京館 永世街八十六號 店主 村上京四郎

旅館 東茂旅館 西北街百七十三號 旦金嚴行西三程

料理 千鳥 元神廟街百三十三號 店主 吉住善藏

料理 沖の島 永世街百六十五號 店主 中川彌三郎

料理 吉野亭 永世街八十六號 店主 坪田正好

旅館料理 高砂ホテル

旅館 高砂亭 西北街 店主 片山小みつ（電話一四五番）

旅館 竹村館 永世街二十二號（電〇五一） 店主 麻田久二

旅館 大和館 永世街三十四號 店主 前田九一郎

料理 滿洲樓 南永世街第十號 店主 直塚勝一

料理 萬梅 豊濟門街第百〇四號 店主 田島濱助

料理 まんなをし 永世街字二本町二百五十九号 元吉田屋跡 店主 和田常松

東京 生蕎麥一式 東庵 元神廟（電〇百五十九）

旅館料理 金城ホテル 永世街百六十六號 / 第二金城ホテル 永世街百六十六號 店主 齋藤富次郎

料理 醉花園 / 旅館 澁谷旅館 永世街百二十七號 店主 澁田留吉

料理 喜樂亭 營口元神廟街

旅館 東雲旅館 永世街七號 店主 谷口今朝太郎

營口軍政署御用旅館 東雲 主任 谷口今朝太郎

さるそば 第一更科 營口元神廟街 / さるそば 第二更科 永世街鶴の湯角

御料理 叮嚀專一 柳亭 豊濟門街二三 店主 玉岡益人

御料理並ニ溫泉 一力 營口永世街 店主 堀万助 毎日新湯

和洋料理 本店 松月亭 營口元神廟街一四三号

和洋料理 御旅館 支店 滿洲ホテル 遼陽西街西門一一七号

遼陽旅館料理屋案內

旅館料理業 營口ホテル支店 主任 井上源吉

御料理會席 菊水館 主任 朝枝團搥

旅館西洋料理 遼陽館 主任 永瀨宇吉

旅館料理業 公陽館 主任 宮川秀基

御料理會席 末廣屋 主任 山根初之亟

御料理 色々應御注文 凱旋亭 主任 古谷庄太郎

旅館御料理 遼塔ホテル 主任 木村常吉

遼陽兵站司令部指定ホテル 遼陽倶樂部 營口東雲館支店 主任 谷口今朝太郎

會席 玉家 / 御料理 主任 西野治三郎

御料理會席 來々亭 主任 石田清

一和洋御料理 遼來館 遼陽城內東街
本館は遼陽城內第一繁盛の地にあり內外人往來頻繁なり今般四方紳士諸君の御勸に依り宏莊美麗なる日本風の家屋を新築致し一百人以上の宴會等も出來得べく廣間も御座候に付ては續々御光來被成下度花客諸彥に對し親切叮嚀を旨とするは弊館の特色に御座候

奉天旅館料理屋案內

旅館 今天 奉天城內鐘樓南大街 奉天軍政署指定旅館（電話一五）

和洋御料理 日淸倶樂部 奉天大南門裡大街（電話一四）

商人御定宿 瑞豐館 奉天小西關內北側 館主 ?野嘉吉（電話 號）

旅館 天福館 奉天小西關大街北側 館主 荒川一松

旅館料理店 日ノ出樓 奉天小西門通（元紅葉館跡）（電話七號）

旅館料理店 日盛館 奉天小西關大街南側 館主 入江俊男（電話 號）

旅館料理店 梅松館 奉天城內大市街東華門宮殿東側（電話）

旅館料理店 大和館 奉天大西關高臺子廟前 館主 今井コノ

旅館 大正館 奉天小西邊門外十間房道北側 館主 大草村行
奉天に於ける日本風新築家屋は弊館より外に無之特に夏期御宿泊には最も適すべき樣に相成居候間御投宿の節至極便宜に御取扱可申上候以上

旅館兼料理店 高砂館 奉天城外十間房第十五號

奉高館 奉天城外四號高砂館支店 館主 宇本智平

旅館料理店 日奉館 奉天小西門外大街 館主 原田清五郎

高等旅館 東洋館 奉天大西門外小什字街（電話 號） 主任 藤島初野

御料理 梅ヶ枝 奉天小西門より一丁西の辻北入 館主 辻井ムメ

旅館料理店 勉強館 奉天小西關外北長發園隣

撫順炭大販賣 多少に不拘御用命被仰付度願上候 金城館販賣部

特別室落成 營口金城ホテル旅館部

藝妓仲居 新來 金城館料理部

奉天小西門外 會席御料理 高等御旅館 金城館

一關內外蘆漢鉄道貨物運輸 但シ營口新民屯間ノ鐵道輸送ハ特ニ充分ナル御便利ヲ圖リ可申候 但弊店事務所及郵船會社代理店內派出員ニテ事務取扱
一海關手續
一鈔關手續 但西營口鈔關裏手東玉昌方ニテ事務取扱
一船舶貨物取扱
一其他水陸貨物運輸ニ關スル諸業
右營業仕候間陸續御用仰付被下度願上候
營口西北街第二七二號 大淸通運公司 營口支店

旅館料理屋に對する酒肴料其他不拂の御方は此際御拂込み相成度萬一督促再三に及ぶも尙ほ不拂の御方は其姓名を掲げ新聞紙を以て請求可仕候間豫め御承知相成度右は同業者協議の上及廣告候也
營口旅館料理屋同業組合

歐米各國最新流行形 西海洋服店 永世街一四一（森病院三軒目）（電話百二十七號）

新着の御知らせ
東京より 蜂印香竄葡萄酒、羊羹、味付海苔、旅行用トランク、手提鞄、御婦人足袋、謄寫版、眞筆版、コツピープレス等
其他 雛立印白酒、寄木細工、漆器、陶器、金屛風等夫れ〴〵産地より着荷仕り候
新到 各種皮包、皮箱、文具格、書掛、書漆茶机、書漆茶盤、金漆書屛、金漆鏡臺、眞筆版、謄寫版、極上麝香水、蜂牌香竄葡萄酒、
營口 加藤洋行（電話八十番）

飯塚工程局材料部
弊局土木建築材料品の各産地と特約を結び廉價を以て多少に不拘賣却仕候間御引立の程奉希上候
一北海道産松大角材外穩々
一石灰、石材、敷石、砕石、煉瓦等
一日本石炭數種
營口元神廟街（電話百三十五番）

○上等石炭 一噸に付 銀十六圓
○上等日本米 一石に付 銀二十圓
○板材木 ○木炭 ○亞鉛板 ○洋釘 ○干鰮魚 ○石灰
御小賣致候間御用の御方は御通知次第直に持參可仕候也
喜久洋行 永世街八十號（電話百五十二番）

大連 東洋ホテル 大連鐵道停塲附近民政署前兒玉町

標子 木板 料木 發賣 營口青堆子 清水寧木局（電話九十四番）

故沖禎介
追悼の爲め江湖諸賢より玉梓して一の紀念帖と爲し度き旨同存父沖莊藏氏より通知有之候就ては其紙數を一葉にても多からしめ以て存亡父子共の光榮を大ならしめ度くと存候間廣く江湖の同情を得度廣告候也
一、刻版は四月中に取かゝる事と存候
一、紙判は美濃紙大
一、沖莊藏在沖繩縣那覇地方裁判所官舍
一、御問合の件あらは左に
新民府奈良崎八郎 營口瀛華學院上野政則 大淸通運公司安田貞藏
同志友人 敬白

爲替劵無効廣告
清曆本年正月二十二日弊號は在阿什河和順昌に於て本年二月二十五日營口にて支拂ふべき爲替劵即該號昌字十七號永記名下銀五千三百五十兩仝十八號功記名下銀二千六百七十五兩の二通を買受け去る二十二日阿什河より合盛信局に托し送附の途中之を紛失せり依て直に該營口分號へ此由を説明し以后該劵發見するとも無効に御坐候間此段廣告候也
營口 永同和主人啓

爲替相塲（三月二十四日）
日本向 百圓二十五錢（軍票百圓に付）
上海向 七十一兩二十五錢（同）
天津向 一百〇二圓二十五錢（同）
芝罘向 一百〇三圓二十五錢（百弗に付）

日本品最近物價表 加藤洋行
紙類
一半紙 一〆 二圓九十錢より三圓廿錢
一美濃紙 仝 七圓五十錢
一仙花紙 一帖（六十枚） 六十錢
一仝 狀袋 二十枚續 三錢二厘以上四錢 / 百枚 十三錢以上十八錢

室內裝飾品及寢具 矢野洋行
一蒲團 三枚組 六圓九十錢以上六十五圓
一座ブトン 十帖 六圓五十錢以上三十五圓
一疊 二圓六十錢以上三圓
一蒲檬 十枚 八圓
一麻緞通 仝 一疊敷 三圓
一綿緞通 三圓五十錢

MANCHURIA DAILY REPORT.
Subscription 4 cts. a copy
80 cts. per month.

本紙定價
一枚ニ付 銀四仙
一ケ月前金 銀八十仙
一半ケ年前金 四弗八十仙
一ケ年前金 銀九弗六十仙